

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	「身体拘束廃止」については、「年間研修計画」に組み込み計画的・継続的に学ぶ機会を確保することが望まれる。現在行われている職員会議での研修について、資料を添付し議事録に残すことが望まれる。	「身体拘束」についての理解を深める。	内部研修職員がでは職員が交代で講師を行いスキルアップを図る。外部研修や施設・法人全体で実施される研修に参加した職員は職員会議時に復講を行いサービス向上を図る。研修で使用した資料については議事録に添付し記録に残していく。	12ヶ月
2	7	「虐待防止」についても、「年間研修計画」に組み込み計画的・継続的に学ぶ機会を確保することが望まれる。現在行われている職員会議での研修については、資料を添付し議事録に残すことが望まれる。	「虐待」についての理解を深める。	虐待について施設内外の研修に参加していく。研修後に内部での研修を行い全体でのスキルアップにつなげていく。研修で使用した資料については議事録に添付し記録に残していく。	12ヶ月
3	26	介護計画に基づいたサービス実施状況が確認できるような記録の工夫が望まれる。	記録の中で実施状況が確認できるように整備する。	日誌等の記録を見直し、介護計画に基づくサービス実施の状況が確認できるような項目の追加や、確認要の記録を新規に作成する。	6ヶ月
4	33	重度化・終末期に関しての指針を明文化し、早い時期に利用者・家族に説明し理解と納得を得ることが望まれる。また、状況に応じた家族との話し合いについては、記録に残し、関係者で共有し統一した支援につなげることが望まれる。	重度化・終末期に関しての指針を明文化する。	重度化・終末期に関して施設全体で検討し、今後の方向性を明文化する。また、作成された指針については、今後利用される方だけでなく、現在利用中の利用者・家族にも説明し理解と納得を得るように話を行う。	6ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。